

訪問型子育て支援

―特定非営利活動法人キッズナビわかば―

11月中旬、朝の8時、寝屋川市内のマンションを訪問した。室内にはI君

(4)と特定非営利活動法人キッズナビわかばの保育ボランティア・Tさん(72)。Tさんは、就寝中のI君が起きるのを待っている。I君は父子



寝起きのひととき

家庭の一人っ子。お父さんが夜勤のために出勤

後、Tさんが深夜2時にお家に出かけて、お父さんとバトンタッチ。一人ぼっちにさせないよう、I君のそばで添い寝してともに朝を迎えた。朝食、身支度と幼稚園に送り出すまで、お母さんとなつて、世話をする。

キッズナビわかばは、子どもを預けたい親と子育てに関心のあるボランティアとのマッチン



幼稚園の制服に着替えましょう

グ訪問型子育て支援事業として、野澤征子さん(76)が、10年前に設立。0歳から17歳までの子どもたちの育ちに立ち会い、現在、128の登録

家族の

カタチ

『幸福な家族像』に惑わされることなく、多様な家族の幸せのあり方を探るべき』

(下重暁子「家族という病」より)

人間成長にとってのベースキャンプである家庭は、

家族一人ひとりの個性が尊重され、本音で共生する場です。

「家族のカタチ」はそれぞれ。

家族でいることの決まりきった方法論はないのです。

世帯と、64人の登録保育ボランティアがいる。

野澤さんから設立の相談を受けたNPO活動支援センター事務局次長は、『キッズナビわかばは、一言でいえば、おせっかいなおばちゃんの家です。困っている家庭やお母さんがいたら、すぐ駆けつける。子どもは社会の宝。みんな育てるものだという気持ちで、自分の子どもや孫のように、優しく対応されています。世の中にはお母さんが追い込まれた末の子どもの虐待事件が後を絶ちません。そんな状況を打開できるハートとパワーを持ち合わせている、おせっかいおばちゃんたちに、大いに期待したい』と、10周年記念冊子に祝稿を寄せている。

野澤さんの子育て支

援のベースには、元大阪府警の少年補導職員だった経験に負うところが大きい。深夜の繁華街をうろつく未成年の少年少女に声をかけてきた野澤さんは、将来はお母さんになるかもしれない少女が道を外さないようにと親身に話しかけてきた。

「子育て支援が私たちの世代から次の世代へと連鎖していくことを願い、明日も喜んで伺おうと思っています」と、野澤さん。キッズナビわかばのおせっかいは続く。



特定非営利活動法人キッズナビの副理事長・野澤征子さん